

# 山地に生息するサシバの生態解明調査

申請者：今森達也

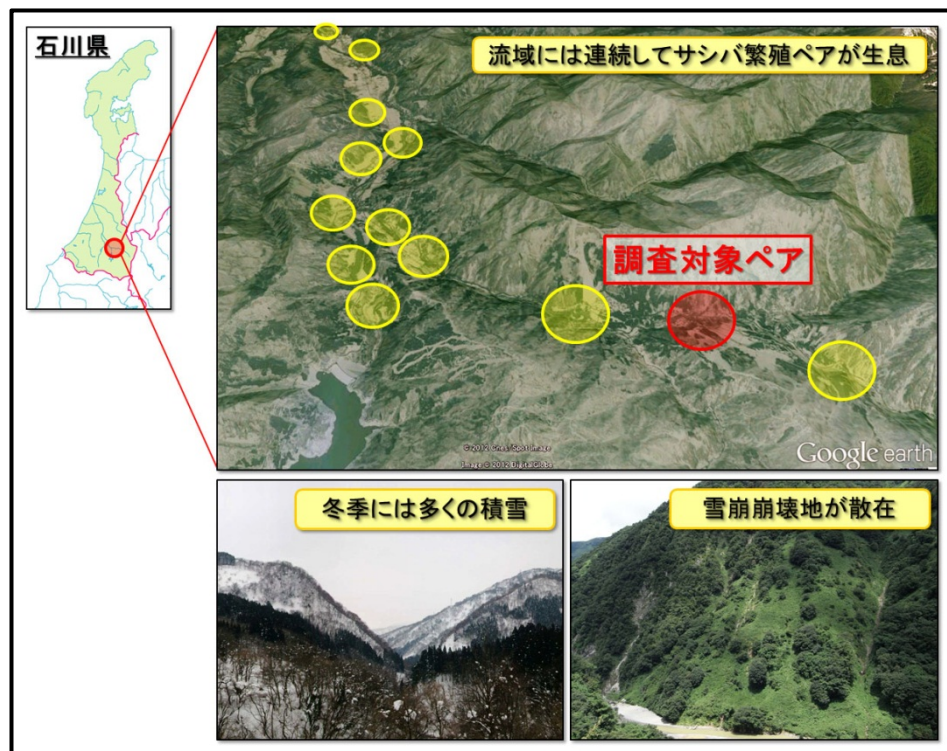
## 1 調査目的と意義

サシバは本州以南で繁殖し、南西諸島からフィリピンまでの地域で越冬する中型の猛禽類である。本種は主に平地から丘陵地の水田と林がセットになった環境、いわゆる里山環境に生息していることが知られている。しかし、近年、里山環境とは異なった、水田がほとんど存在しない山間部や水田が全く存在しない山地の渓谷においても本種が分布していることが報告されるようになり(紀國ほか 2010, 今森ほか 2011)、しかもそれらは決して少ない生息数ではない可能性があることが分かってきた(今森ほか 2011, 2012)。これまで、サシバに関する研究は低地から丘陵地にほぼ限定され、山地での研究は地形的な障害もあり、ほとんど進んでいないが、山地にも相当数のサシバが生息していることが見込まれるため、本種の保全を考える上では山地のサシバの生態を明らかにすることが重要である。

筆者らは 2012 年に石川県内の山地の渓谷で繁殖したサシバの 1 巣で、巣内雛に運ばれる餌動物の内容を把握することを目的に調査を実施した。その結果、巣に搬入された餌動物の割合は、爬虫類が約 5 割と最も多く、次いで小型哺乳類とカエル類がそれぞれ約 2 割、昆虫類はわずかに 1 割未満であり、里山環境のサシバとは状況が大きく異なっていた。ただし、現時点では 1 巣のみの結果であり、これが山地に生息するサシバの一般的傾向かどうかは分からないため、今後も山地に生息するサシバについて研究を進める必要がある。

## 2 調査地

水田環境の少ない山地にサシバが連続的に分布しているのは、積雪量の多い日本海側の特性であることが推測され、2012 年の調査地においても流域沿いに本種が連続分布していることが判明している。2013 年は、同じ流域の別ペアについて調査する。また、比較のために石川県内の里山環境においても調査を行う。



### 3 調査内容

#### 1) 調査方法

調査対象ペアの営巣木に小型カメラを設置して巣内の状況を録画し、育雛期の巣に搬入される餌動物について解析を行う。

#### 2) 調査時期

サシバの渡来後、目視観察と踏査により繁殖巣を特定し、雛の日齢が 10 日程度に達したところで小型カメラを設置し、以降巣立ち時期まで録画を行う。抱卵期及び孵化直後は繁殖活動中断の危険性が高いため、カメラの設置は行わない。

#### 3) 必要機材など

- ・録画機材(ブルーレイレコーダー)
- ・録画機材格納設備(小型の収納庫)
- ・小型カメラ
- ・電源ケーブル及び映像送信ケーブル
- ・電源設備

2013 年は比較のために里山環境でも同様の調査を行う(2012 年の機材を使用)ため、本調査を実施するに当たっては、新たに機材一式が必要である。また、調査者の自宅から調査地までは往復約 70km の距離があり、繁殖巣の特定、繁殖状況の確認(産卵や孵化、雛の日齢確認)、機材設置及び定期点検、回収作業などのため、車両の燃料代も必要である。これらの費用を捻出するため、是非とも御支援を願いたい。